

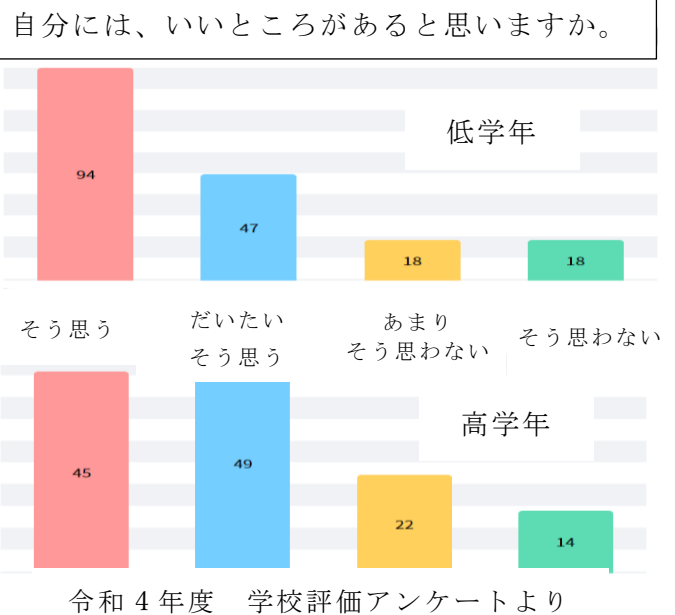
豊かな心育成推進プラン

重点取組分野		具体的取組
豊かな心		①ペア活動・たてわり活動での異学年交流を通じて、相手を思いやる心を育成する。 ②児童会活動や学校行事を通じて、友達と同じ目標に向かうよさを実感できるようにする。 ③子どもたちが個性を認め合いながら、居心地の良い学級・学校づくりを目指せるようにする。 ④多様な価値観にふれられるように、地域とのつながりを感じられる活動を取り入れる。
担当	特活 道徳 学校行事	

豊かな心に関わる本校の状況

低学年も高学年も学校生活について、おおむね肯定的にとらえている児童が多い。特にコロナ禍以前に行っていた遠足や宿泊体験、運動会が少しずつ戻ってきて、学校行事を楽しみに心待ちにしていた様子がアンケートの意欲的に取り組んだ児童の割合の多さに表れている。行事を通して一回り大きく成長する姿も多く見られたことから、来年度以降も状況を見ながら、学校行事の内容の充実をより図っていきたい。高学年になると若干「決まりやルールを守っての行動」や「自分からのあいさつ」をする割合が低くなっているのは残念である。

規範意識を高め、礼儀正しい姿から、低学年から憧れられるかっこいい高学年をめざしてほしい。児童一人ひとりの多様性や個性を認め、積極的によさを見つけ褒める機会を増やし、自己有用感を高めていきたいと考えている。



今年度の目標

自分も みんなも 大切に作る心を育てる

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

- 各クラス・各学年が友達との気持ちがつながり合うことのできる機会を設け、「だれもが安心して過ごすことができる」を目指した環境づくりを整備する。
- 年度当初に、学校生活についてのアンケートを行い、1 回目の子どもの教育相談を行う。
- Y-P アセスメント 1 回目の実施。学級の実態に応じた社会的スキルを設定し、認め合う学級集団づくりにつなげる。
- ペア活動・たてわり活動の、異学年交流でかかわり合うよさを感じさせる。
- 人権研修の場を通して、教職員の意識の向上の推進を図り、多面的な児童理解と具体的な支援・指導、協力体制を実践する。
- 自分づくりパスポートを活用して自分の成長や変容を見通したり、振り返ったりすることで、自らを見つめ直し、自己肯定感、自己有用感につなげていく。
- スクールサポーターズ、学援隊、農援隊の方々を全校児童に紹介し、地域への愛着を高める。

下半期

- ※前期をふり返し10月に修正
- Y-P アセスメント 2 回目の実施。個人プロフィール票を活用した児童理解を深める。
- 「たてわり集会」や「運動会」などの児童会活動や学校行事を通じて、友達と同じ目標に向かい、共に活動できることへの喜びを実感できるようにする。
- 人権週間では、子どもの日常に即した切実感のある話題から、人権意識を高める。
- 全市一斉のアンケートを実施し、子どもとの教育相談を実施する。
- 自分づくりパスポートを活用して自分の成長や変容を見通したり、振り返ったりすることで、自らを見つめ直し、自己肯定感、自己有用感につなげていく。
- スクールサポーターズ、学援隊、農援隊の方々への感謝の気持ちを伝える活動を設定する。